



第 **23** 号

発行：
十日市場開拓伝道
支援会

十日市場とともに 日本でのキャラバン伝道

イレーネ・フリーゼン

「日本」と聞いて多くのヨーロッパ人が思い浮かべるのは、躍動する首都東京、革新的な技術、地震と災害、そして近頃はヨーロッパにも広がりを見せている若者文化でしょう。私たちプングシュタットの教会でもベック家のいる「日本」といえば、皆同じようなことを想像します。



イレーネが夫のトマスと共に 25 年前に私たちの教会から日本へ派遣されて以来、私たちの教会とベック宣教師一家とはずっとつながりを保ってきました。

昨年、トマスが宣教報告のためにドイツに滞在中、宣教師となって 25 周年が祝われました。それを機に、私たちの教会の指導者たちはあるアイデアを思いつきました。それはプングシュタットの教会からキャラバン隊を派遣するというアイデアです。ベック家を励まし、せめて短期間であっても宣教師たちの実際的な働きを共に担うため、また、ドイツの地から飛び出して「私たちの」ベック家が宣教地で味わっている困難や喜びをわずかばかりでも知ることが目的でした。

それからすぐに 21 才から 67 才までの 16 名から成る相当大きなキャラバン隊が編成されました。またベック夫妻の側でもキャラバン伝道にまつわる煩雑な業務を厭わないと言ってくれました。

そうして 5 月 17 日、私たちは横浜に到着しました。これから何が待っているのか、期待に胸が躍りました。ベック夫妻には自分たち家族の日常生活やシュラハイムの働きがあり、その上トマスには教会での働きと宣教団代表の任務があるにも関わらず、お二人はこれほど大勢の人たちの宿泊や移動、食事の世話に関して申し分のない仕事ぶりを発揮してくれました。私たちの期待をはるかに超えて、さらに観光ツアーも企画されていました。日本の文化を知る貴重な機会となりましたし、何よりもただ本当に楽しかったです！

教会と関わりのない方々を横浜の教会に招くきっかけを作るため、私たちは「ドイツカフェ」を計画しました。そこで日本に到着してすぐ、そのためのチラシ配布を行いました。

それからキャラバン礼拝がありました。何年か前に開拓伝道によって十日市場に建てられた教会で皆さんとお会いすることになっていましたので、ドキドキしながら日曜日を待ちました。教会の皆さんはとても親切に私たちを迎えて下さいました。神様の子どもたちが主にある兄弟姉妹として出会う時、言葉や文化、見た目、年齢等の垣根は消え去り、全然重要ではなくなることに、新たに驚きと喜びを覚えました。私たちは騒々しく、作法のなっていないドイツ人グループでしたでしょう。多くの場合、日本文化の繊細さに注意を払えなかったのは確実です。でも、十日市場のクリスチャンたちはそのようなことを寛大に見逃して下さいました。私たちは共に礼拝を守り、その後の愛さん会では言葉の許す限り、活発な交わりを持つことができました。言葉が見つからなくても代わりに輝くような笑顔と握手がありました。



その後、4 日間はリーベンゼラミッションの休暇施設「奥多摩福音の家」に行き、スタッフの方々の指示に従って実際的な奉仕活動を行いました。コックさんが作って下さる大変おいしい食事に元気づけられながら、塗装、掃除、床のタイル貼り、壁張りや溝掘り、雑草取り等々にいそしみました。その途中には意義ある会話を交わしました。私たちは共に賛美し、ゲームをし、笑い合い、祈り合いました。圧倒されるような美しい自然を堪能し、交わりを楽しみました。この間、皆が病気やケガから守られたことに心から感謝しています。

横浜に戻るとすぐにドイツカフェの準備です。ドイツらしいケーキを焼き、プログラムを考える傍らで賛美を練習し、教会に飾り付けをしました。そして、多くの方が招かれて、教会のことを知って下さるように祈りました。初めは教会の中はなかなか一杯になりませんでした。賛美のプログラムが終わった頃には座席はほぼ埋まりました。一生懸命に「ドイツ・クイズ」をするうちに、お客さんの緊張も解けたようでした。

さらにお客さんが入って来られ、私たちのグループの一人ダニエル君の証と一緒に聞くことができました。彼はバイクで大事故に遭いましたが、神様が介入して下さり、奇跡的なみ業をなして下さったことを話しました。皆さんの心が揺さぶられているのを感じました。

ケーキビュッフェが始まると、嬉しいことに、皆さんは日本特有の「遠慮」を忘れて下さいました！わずかに残ったケーキも喜んで包んでもらい、お帰りの時にはドイツのチョコレートを嬉しそうに持って行かれました。日本の皆さんにとって教会への招きに応じることはとても難しいことだと知っていますので、神様がこのように働いてくださったことに心から感謝しています。ここから教会につながる方が起こされるように祈っています。



次の日曜日には中山キリスト教会を訪問して、皆さんから温かく、愛に満ちた歓迎を受けました。その後は5月29日の帰国までゆっくりと過ごしました。

ベック家の傍で共に過ごした時間にとっても感謝しています！私たちにとってベック家の素晴らしい子供たちも、とても大切な存在になっています。ベック夫妻がたくさんの奉仕にも耐え忍んでいけるよう、また助けと支えが与えられるように祈っています。

振り返ってみれば、行き帰りの旅程も現地での様々な計画もすべて滞りなく進んだことに驚くばかりです。私たちは多くのお祈りに守られました。神様からすばらしい贈り物をいただいたように感じています！

会計 十日市場開拓伝道支援会

尊いおささげものを感謝します。昨年100万円の返済に加えて6月に200万円の返済をしたことで、現在の支援会債の残額は2820万円となっています。この他にリーベンゼラからの借入金1000万円があります。会計残高は、今後の事務費を除き、返済積立金ということになります。6月末で1077万円となっています。これに既に返済した300万円を加えて、ももとの支援会債と借入金の合計額(4120万円)で割り返すと33.4%{(返済済み額300+現在の残高1077)÷4120=0.334}になりました。引き続きお祈りください。

2018年4月～6月会計報告

<収入>	4～6月
献金・謝礼等A	1,534,370円
<支出>	
事務費、通信費	33,042円
その他雑費	9,822円
支援会債返済	2,000,000円
合計B	2,042,864円
<会計残高>	
3月末残高	11,280,507円
今期差し引きA-B	△508,494円
6月末残高	10,772,013円(返済積み立て金)

<2018年4月～6月に献金や謝礼をいただいた教会等 50音順>
生田丘の上、泉、今泉、永福南、大磯、上作延、かもし聖書、相模原福音、鷺沼、湘南、湘南のぞみ、湘南ライフタウン、菅生、逗子福音、たまプラーザ、長津田、中山、花の木、浜田山、東村山、本郷台、まきば、松見ヶ丘、武蔵台、横浜キリスト福音、横浜永谷、横浜緑園、十日市場めぐみの28教会、個人2件

十日市場めぐみキリスト教会の祈りの課題

佐藤優子師による

1. 宣教師、伝道師、奉仕神学生の働きが守られますように。謙遜をもって主の栄光のために仕えていきますように。
2. 教会がキリストにあって成長しますように。十日市場の地で福音を力強く宣べ伝えていけますように。聖書を読む会、子供お楽しみ会の祝福のために。
3. 教会の一人ひとりがみ言葉と祈りによって霊的に成長しますように。求道中の方々に主の強い導きがありますように。健康の試みにある方々に主の励ましと慰めがありますように。信仰生活の学び(2名)、洗礼準備講座(3名)の祝福のために。
4. 長期休暇中のベック宣教師ご夫妻が霊肉共に休息し、新しい力をいただくことができますように。その間、子供たちが守られますように。
5. ベック宣教師休暇中にご奉仕して下さるトラウゴット・オッケルト宣教師・ドロテア夫人の上に神様の助けと祝福が豊かにありますように。

連絡先：十日市場開拓伝道支援会事務局

〒213-0034 川崎市高津区上作延 906
上作延キリスト教会内 Tel.044-866-6950
メール kamisaku@cj9.so-net.ne.jp

献金窓口：①郵便振替

「十日市場開拓支援ネットワーク」
00280-5-70757

②ゆうちょ 記号 10280 番号 32539591
口座名「十日市場開拓支援ネットワーク」